

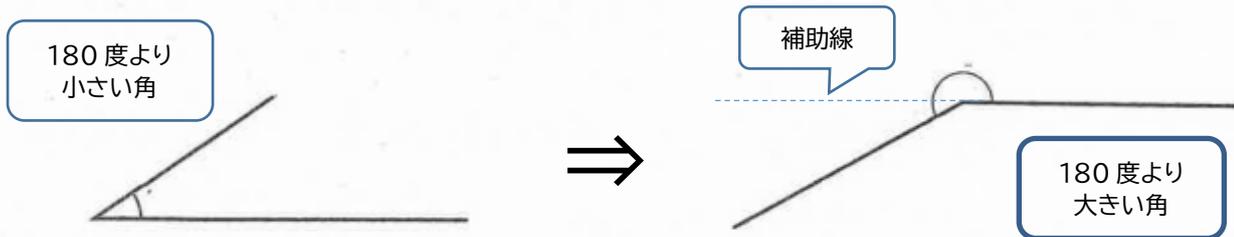


多角的な物の見方

副校長 坂本 直人

4年生の算数には、「角の大きさの表し方を考えよう」という単元があります。その中で、角の大きさを求める問題があります。分度器を使って180度までの角の大きさを求める学習を行った後、今度は180度より大きな角の大きさを求めます。それまでに学習した、分度器を当てて角の大きさを測るという方法で求めることができず、子どもたちはどのように取り組めばよいのか迷います。

その内に、子どもたちは各々が考え、いくつかの方法を見付けます。補助線を引いて、180度とあと何度かという求め方をする子、一周が360度という考えを使い、そこから引いて考える子、正しい角度に辿り着く方法は様々です。



このような問題に取り組むときに、一つの考えだけでなく、色々な考え方で答えを求めることができます。つまり、物事を多角的に見ていると言うことができます。これは学習に取り組むときや日常の事象について考えるときにとっても大切です。一つの課題に対して、「前の問題とは違うからやり方を変えてみよう。」「こうやって考えることはできないかな。」と、色々な角度(視点)で考えることで、今まで考え付かなかったやり方を見付けたり、友達と共有することで知ったりします。また、この経験を通して、新しい問題に取り組むときには、一つの考えだけでなく、いくつかのやり方を試す子が出てきます。そして、新しい学習や活動に対して、意欲的に取り組むことにもつながっていきます。

5年生の社会科には、「未来を支える食料生産」という単元があります。日本の農業や水産業について学習します。我が国の農業や水産業における食料生産について考え、理解を深めます。農業や水産業の実態について知り、これからの発展について考えるといった場面では、生産者と消費者、両方の角度(視点)から考えることが大切です。

以上のように、学習を始め、身の回りの事柄について考えるときに、一つの側面だけから見るのではなく、様々な視点から見ることで考えが広がります。また、そこから得た情報を整理して、自分の知見を深めることもできるのではないのでしょうか。学校での日々の学習活動では、こういったことを意識して指導していきます。ご家庭でも、機会を見付けていただき、色々な視点で考えるという話をしていただけたらと思います。